

(一)われわれのこの人生は、二度と繰り返し得ないものだということ。
(二)われわれは、いつ何時死なねばならぬかも知れぬということ——
この二重の心理が切り結ぶことによって、はじめて多少は性根の
入った人間になれるとあってよかろう。

森信三先生一語千鈞より

再生



山山又

又

再生の題字（森畑彦様提供）は、森信三先生の直筆です。

中・高生のための「人間の生き方」

森 信三先生 講述

実践人福岡仁風読書会 第84回 12月2日(土)
場所：仁風庵
(実践人の家の会員であればどこでも参加できます。
(参加費無料) 詳細は、世話人へお問い合わせください。

一五いのち——この最貴なるもの

これまで皆さん方に回を重ねてお話しして来ましたが、いよいよ最終講にたどりつきました。そこで人生の根本問題である「人は何のために生きるか」という人生の根本問題について考えてみたいと思います。

さて、この「人は何のために生きるか」という問題ですが、こういう問いに対して、人によつては「そんなめんどうくさいことが、われわれに分かるものか。たれにも頼みもしないのに、この世の中へ生まれてきたんだから、生きる他ないさ」という人も無いではないでしょう。否、ウツカリすると皆さん方の中にも、そういう考えの人が、かなりあるかも知れません。

これに対してわたくしは、それもある意味ではムリからぬことであり、否ある意味では、もつともな事とさえ思うほどであります。

ところで、この地球上には現在四十億人以上の人間が生きているといわれますが、しかしそのうち自分の意志でこの世に生まれ出た者は、一人もないわけであり、いわんや親を選んでこの世に生まれたという人は、ただの一人もいないのであります。わたくしたちは、こうした事実を如実に認めないわけにはいかないと思うのであります。さて考えてみますと、皆さん方のご両親も、また自ら親を選んでこの世に生れ出たわけではなく、それぞれの父母から血をうけてこの世に出現せしめられたわけであり、

こうして二十五代(仮に一世代を三〇年として七五〇年)もさかのぼりますと、私たちの先祖の数は、何と三三三、五五四、四三二人という厩大な数に上るわけであり、思えば何という無量の先祖たちが、それぞれにその生命を伝えて

きた結果、わたくし親となり、ついでこのわたくし自身の生命があるわけであり、

こうして考えますと、わたくしたちの体内を流れる血の中には、文字通り数え切れないほどの無量の先祖の血をうけていると言えましょう。この事は、又ひるがえつて考えますと、今日このわたくしたちの生命の中には幾代もの親さん方の願いがこめられているとも言えるわけであり、ですから現在ここに、この地上に与えられたわたくしどもの生命を大切に貴く思うのは、実はそのまま無量の祖先の願いにこたえる事でもあると思うのであります。

さらにまた、そうした考えに立ちますと、ひとり自分の生命だけでなく、他の人びとの生命も同様に尊いものであり、さらにそれを拡大して考えれば、動物や植物などこの地上にあるすべての生きし生けるものの生命が、不思議でめずらしく尊く感じられてくるのであります。

かの密林の聖者と云われたシユバイツァー博士は、アフリカの西岸からランバレーネの川をさかのぼつてゆく時、突然「生命の畏敬」の感に打たれたというのは有名な話ですが、このような感動を鮮やかに書きしるしてあります。

皆さん方としては、もろもろの生命の尊貴を思うまゝに、先ずもつてこの自身自身の生命の不思議と貴さを思わねばならぬでしょう。そしてそのためには、自分の誕生や幼児の頃の事のみならず、自分の両親のことは勿論祖父母や、出来れば曾祖父父母までもさかのぼつて、よく聞いて調べておくことは、一つ重要なことを思うのであります。

ところで、わたくしの道友で先年亡くなられた、徳永康起先生の一代の名譽と

して、ゼヒとも皆さん方にお伝えしたいのは、次に揚げるコトバであります。現在この地上には、数十億というたくさん人間が生きていますが、しかし二両親ほどあなた方の生命の安全と成長・発展を願っている人は、他にはまったく絶無といつてよいでしょう。そこで、そうした親ごさんの「祈り心」の一たんを察し得るような人間であつてこそ、真の人間といふべきだと、申しておられるのであります。

さてこの章の始めにわたくしは、「人は何のために生きるか」という問いをかかげましたがそれは実に人生最大の大问题でありまして、この人生最大の真理の探究は、今後皆さん方が最低十年から十五年くらいはかけて、それぞれ探究することとして、「ここにはこの「人はどのように生きるべきか」という大問題に對して、一おうのお答えをしたいと思います。それについてわれわれこの人生といふものは、

(一)自分が持つて生まれたきたいのちの特色を、十分に發揮し實現することに
(二)自分の接する範囲の人びとに對して、できるだけ親切にし、たとえ少しでも他の人びとのために尽くす

ということの他ないでしょう。こういうと皆さん方の多くは、「人生の意義といつたら、もつと深遠なことかと思つていたのに、ナンダ、こんな分かりきつた事なんか」と思われる人も少なくないでしょう。しかしわたくしとしては、結局この二つの事以外にはあるまいと思つたのです。

だが、こんな事なら知つているというだけでは、真に身についたとは言えないわけです。否、すくなくとも一日一日を、そうした確信によつて、力よく生きていくかとは言えないわけでしょう。

ところで、こうした生き方をする根本には、すでに第一章で申したように「人生二度なし」という人生最大の根本真理が、たえず心の底深く根ざして、一日一日を生きる原動力とならなくてはならぬでしょう。すなわちこの「人生」といふものは二度とくり返し得ないものだ」といふことと、(一)もう一つは、われ

われ人間は、いつ死なねばならぬかわからぬという、人生に関するこの二大根本真理が、心の底でガッチリと切り結ぶようになると、そこからしてはじめて「今日」という一日が、いかに大切かということが分かり出すわけです。そして、この二度とない人生を真に充実に生きるといつても、結局突きつめた最後は、「今日」というこの一日を、いかに充実に生きるか、という努力の他ないわけですから、それをさらにつきつめれば、「今日の予定は断じて仕上げて明日にのばさぬ人間に!!」という他ないことになりましょう。

ではみなさん、お元気で——。

母よ 徳永 康起

母よ!!

わたしは

茗荷の芽の出るころになると

きまつてあなたのことを

思うのです

祈ることだけを知つて

その他を知らなかつた母よ!!

あなたの写真一葉は

いつも肌身はなさず

持つているわたしです

時を守り
場を清め
礼を正す
不尽

第二章 気品ある人格を育てる

人間にも賞味期限がある

賞味期限がもたらす弊害



いまの日本人は、食物の賞味期限にとっても敏感になりました。

誰であっても、“つくりたての新鮮なもの”を望むのは当然であり、その気持ちはよく分かります。しかし、賞味期限に過敏ともいえる反応を示ることによって、まだ十分に食べられるものまで廃棄するという、多大な無駄が生じ、国家的な大損失を招いています。

かつての日本人はもつと大らかであり、自己の判断と責任において選び取っていました。他者の決めた基準に頼らないことから、偽られることもありませんでした。

いまは他者の基準に頼り切っているため、偽られることも多くなりました。決められた期限を偽ったり、規則を破ったりすることは許されませんが、そのような恥ずべきことをせざるを得ないところまで追い込む消費者側も、その姿勢を改めるべきでありましょう。

現代の人々の過剰な反応を、人間の進歩・成長ととらえていいのでしょうか。

視聴覚・味覚の発達は進化といえますが、その反面で他を顧みない、寄せ付けない“自分だけの世界”を構築して、自己中心になりかねない要

素も含んでいます。

食物に限らずあらゆる商品は、つくってくださる方の工夫と努力は大変なものであり、生産者の手を触れてからも、多くの人々の手を経て私たちの手に届きます。その間に関わる人たちがすべてが、自らの骨身を削るようにして与えられた使命を果たしています。一人としていい加減な気持ちで関わっている人はおりません。

特に衛生上で厳しい制約を受けている食品については、細心の注意が払われているはずですが、その骨折りを思いやり、感謝の気持ちを抱くことが、大らかな心といえます。

しかし、そのせつかくの努力と骨折りの結晶に対して、店頭に届いた後、二、三日、時には一日の寿命しか与えられないとすれば、もったいない限りです。

賞味期限という「黄門様の印籠」の下に、膨大な無駄が生じ、その分が次の商品の価格に転嫁される不利にも通じています。

地球に住む人たちのすべてに十分行きわたらない貴重な食料に対して、自分だけ“新しくて安くて美味しいもの”を望むことが、不知不識のうちに「他者への思いやりに欠けた心」になっていると危惧します。



日本一きれいな博多駅・福岡の街に！

第 361 回

博多駅 早朝清掃

毎月 **8** 日 午前 6 時 15 分～

【第一回】平成 5 年 12 月 8 日開催

福岡実践人・JR九州博多駅
精華女子高等学校・福岡掃除に学ぶ会

 **ハウスマイト**



第361回 博多駅早朝清掃

満31年目のスタート！

12月8日(金曜日)

95名参加



第 3 6 1 回「博多駅早朝清掃」を全国から師友道友が駆けつけていただき盛大に挙行することができました。遠くは宮城県から帆足先生を偲んで創会当時の有志の姿もありました。30年という歴史の重さを実感した早朝でした。JR九州博多駅長からは、感謝状を頂き感無量!! 次の十年に向けての積み重ねのスタートです。

けさえもん 拝



JR九州博多駅長から感謝状授与



帆足先生の出身校
福翔会会長さん



前博多駅長



精華女子高生に表彰状



多数回参加の精華女子高生



鍵山幸一郎さんよりTシャツのプレゼント







福岡掃除に学ぶ会／博多駅早朝清掃30周年

記念講演・交流会／博多百年歳



博多駅早朝清掃30周年記念大会、福岡実践人研修会では、木南一志講師をお招きして「論語と掃除」という演題でご講演いただきました。木南様独自の観点から掃除と論語を調和され掃除の意義を深められました。



福岡掃除に学ぶ会／博多駅早朝清掃30周年

記念講演・交流会／博多百年歳



交流会が終わって／博多百年歳



前夜祭／糸ぐるま



再生一月号

令和六年一月八日発行 (毎月一回八日発行)

創刊 平成二十八年九月一日

発行人 富吉製装右衛門

	1月					2月				3月			
日	2	6	7	8	20	3	4	8	24	3	8	9	23
曜	火	土	日	月	土	土	日	木	土	日	金	土	土
行事活動名	長目の浜海岸清掃 第12回	福岡空港ミリオンプ清掃68回	戒壇院早朝作務 第7回	博多駅早朝清掃 第362回	西梅田公園早朝清掃	福岡空港ミリオンプ清掃69回	戒壇院早朝作務 第8回	博多駅早朝清掃 第363回	長目の浜海岸清掃 第13回	戒壇院早朝作務 第9回	博多駅早朝清掃 第364回	福岡空港ミリオンプ清掃70回	長目の浜海岸清掃 第14回
場所	鹿児島県薩摩川内市	福岡空港周辺	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	西梅田公園	福岡空港周辺	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	鹿児島県薩摩川内市	太宰府市戒壇院境内	博多駅博多口	福岡空港周辺	鹿児島県薩摩川内市
開始時刻	7時00分		6時30分	6時15分	6時00分		6時30分	6時15分	6時30分	6時30分	6時15分		6時30分
運営団体	楽農人 とんぼろ海掃隊	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	大阪掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃隊	太宰府作務に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	福岡掃除に学ぶ会	楽農人 とんぼろ海掃隊

上記行事予定表は、富吉の参加する予定を掲載させていただいています。その他、活動しているお掃除実践もごしますので、事務局にお問い合わせください。

発行人(編集人)富吉 製装右衛門

◇NPO法人福岡実践人 福岡掃除に学ぶ会

Lineグループ運営:福岡清爽クラブ

◇福岡仁風読書会

◇NPO法人楽農人 とんぼろ海掃隊

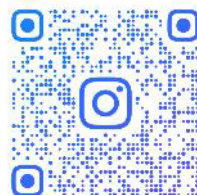
〈合同事務局〉〒811-2247

福岡県糟屋郡志免町向ヶ丘2丁目4番3号 ≪仁風庵≫

TEL 092-931-8155 FAX 092-931-8120

E-mail fukusoukai@souji.link (掃除)

こしき仁風庵:鹿児島県薩摩川内市里町里90番地



@F_JISSENJIN



「再生」に掲載している写真は、富吉が撮影・管理しています。必要な方は事務局までご連絡ください。